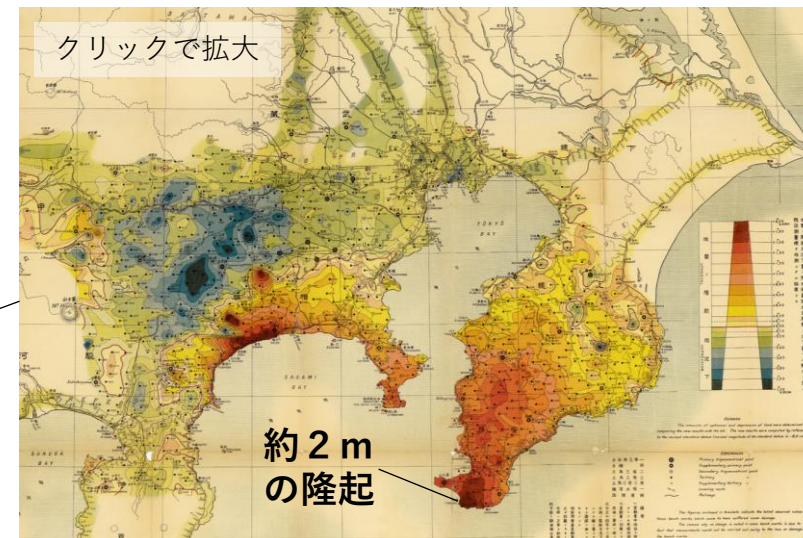


令和6年能登半島地震及び過去地震で観測された地殻変動の比較

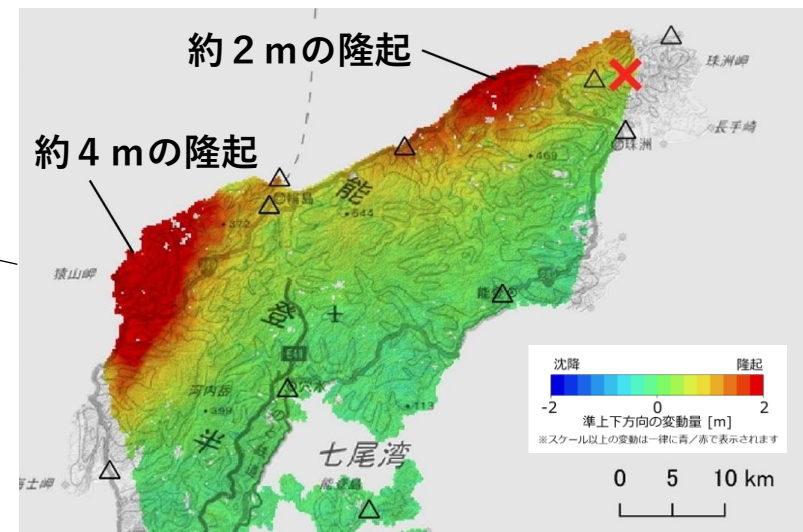
R6年能登半島地震では、過去の主な地震に比べ、大きな隆起を観測

【主な地震のマグニチュードと地殻変動量（測地測量による）】

地震 (発生年月日)	マグニ チュード	隆起・沈降量 (最大)	水平変動量 (最大)
大正関東地震 1923年9月1日	M7.9	約2 mの隆起 ※1	約3 m ※1
兵庫県南部地震 1995年1月17日	M7.3	約0.3mの沈降 ※2	約1 m ※2
東北地方太平洋沖地震 2011年3月11日	M9.0	約1.2mの沈降 ※2	約5 m ※2
熊本地震 2016年4月16日	M7.3	約2 mの沈降 ※2	約2 m ※2
令和6年能登半島地震 2024年1月1日	M7.6	約4 mの隆起 ※2	約3 m ※2



関東震災地垂直変動要図（陸地測量部 作製）



R6年能登半島地震でのSAR解析結果（準上下方向の変動）

参考	断層のずれによる変位量	
	垂直（最大）	水平（最大）
濃尾地震 1891年10月28日	M8.0 約6 mの垂直変位 ※3	約8 mの左横ずれ ※3

※1 国土地理院の前身である参謀本部陸地測量部作製の「大正十二年関東震災地垂直変動要図」及び「一等三角点水平位置移動要図」より抜粋

※2 国土地理院による地震後の測量結果

※3 中央防災会議 災害教訓の継承に関する専門調査会「1891 濃尾地震 報告書」より抜粋